

## 福井県学力調査（SASA2019）の結果と活用について

## 1 結果の概要

## (1) 調査内容と成果

調査の内容	……………	別添1
調査結果（速報）	……………	別添2

## (2) 今年度の新たな取組の成果

## ①採点・集計の外部委託の実施

## ・学校における負担感について

アンケートでは昨年と比べてもらったところ、小学校で8割、中学校で9割が「軽くなった」と答えている。

## ・結果報告

各学校・市町教育委員会への報告：1月中旬（昨年度まで 2月上旬）

## ②児童・生徒による自己評価の導入

自己採点の効果について、学校現場からは、小学校は約9割、中学校では約8割が「効果がある」と答えている。（アンケート調査より…… 別添3）

学校からは、「調査直後にもう一度振り返ることは、子ども達が自分自身で課題を見つけることにつながり、大変有効だと感じた。」等のほか、「どうしても×ばかりつけることで意欲の低下した子ども達への対応などの課題もある」との意見もあった。

## ③「調査のポイント」の事前配付

「調査のポイント」は小・中ともに活用されており、アンケートでは小・中ともに、9割が「役立つ」と答えている。

## ④読書環境についての調査（学校質問紙）

全国学力調査を受けて今年度新たに調査を実施した。

## ⑤識字障害等のある児童・生徒への配慮

対応状況：ルビ振り28校（85名分） 拡大文字2校（2名分）

## (3) 調査結果に見る成果と課題（抜粋）

## ①児童・生徒のつまずきの明確化（中学校数学）

円とおうぎ形の関係について、以前から課題とされていたが、今回、選択式を導入したことにより、子ども達のつまずきがより明確になった。

## ②地域性が現れている（小学校社会）

高速道路が通る市町を問う問題において、嶺北と嶺南では多少正答率の違いが見られた。

## ③学習したことを日常生活に生かす（小学校国語）

委員会の話し合いをもとに、相手に伝わるように必要な情報を取り上げて話すことに課題が見られた。

## ④基礎的読解力の状況の把握（中学校国語）

4割程度の生徒は主語の指摘ができず、基礎的読解力に課題がある。

⑤現代のデジタル社会へ一石を投じる（中学校理科）

ばねばかりの活用問題において、はかるものの重さに対応したばねののびが理解できていない状況が見受けられた。計測機器がデジタル化されており実体験不足と思われる。

⑥英語を積極的に使おうという態度の定着（中学校英語）

「読み・聞く・書く」の技能統合型の問題で、条件を踏まえて自分の考えを積極的に述べようとする態度がみられた。

(4) 記述式問題について

各教科における主な観点および状況

教科		測りたい力（思考力・理解力・表現力）
小学校	国語	生活の中で知識を活用する能力をみる。
	社会	必要な資料を選び、選んだ理由および読み取った事項を表現する力をみる。
	算数	論理的に考えを進めて、出した答えの根拠を説明する力をみる。
	理科	複数の資料から読み取れることを関連付けて考察し、科学的根拠を明らかにして説明する力をみる。
中学校	国語	複数の資料を正確に読み取り、自分の意見と関連付けて表現する力をみる。
	社会	複数の資料を正確に読み取り、必要な情報を選択・比較・関連付けし、その根拠をもとに説明する力をみる。
	理科	図とグラフを照らし合わせ、読み取れた情報を科学的根拠として説明する力をみる。
	数学	与えられた事象について、求め方を理解し、説明する力をみる。
	英語	状況に応じて、自分の考えを読み手に正しく伝える力をみる。

2 活用について

(1) 学校でのゆとりのある指導助言と迅速な学校への支援（訪問研修）

1月中旬に学校・学級・子ども一人一人の結果を送付し、訪問研修を実施する。（今年度は、全ての児童生徒の解答用紙が研究所に残るため、学校の実状に応じた研修の実施が可能）

(2) 記述式問題の分析

記述内容の傾向などを詳細に分析し、今後の具体的な授業改善方策を提案する。

(3) 読解力の状況についての調査研究

解答の状況からみえる子ども達の読解力の状況について調査研究する。

(4) ふるさと教育に役立てる。

(5) その他

地域的・社会的な課題などについて分析し、他部局と連携する。

例：「環境問題に対する子ども達の意識」「読書についての子ども達の意識」など

## 福井県学力調査(SASA2019)の実施内容について

### 1 目的

県内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や、学習状況の改善等に役立てる。

### 2 実施日と調査人数

令和元年12月10日(火) 学力調査 国語、社会、英語(中学校のみ)  
11日(水) 学力調査 算数・数学、理科、質問紙調査

小学校5年生 6, 875名

188校(公立小学校187校、福井大学教育学部附属義務教育学校前期課程)

中学校2年生 6, 574名

77校(公立中学校74校、福井県立高志中学校、福井県立福井特別支援学校、  
福井大学教育学部附属義務教育学校後期課程)

※障害のある児童生徒に対する配慮(拡大文字・ルビ振り対応)

#### 【出題の変更点】

- ① 基礎学力、活用力、実社会の中で直接生かせるような総合的な問題を一体的に出題
- ② 子どものつまずきの様子が分かるように問題を精選(問題数・選択式問題・誤答類型など)

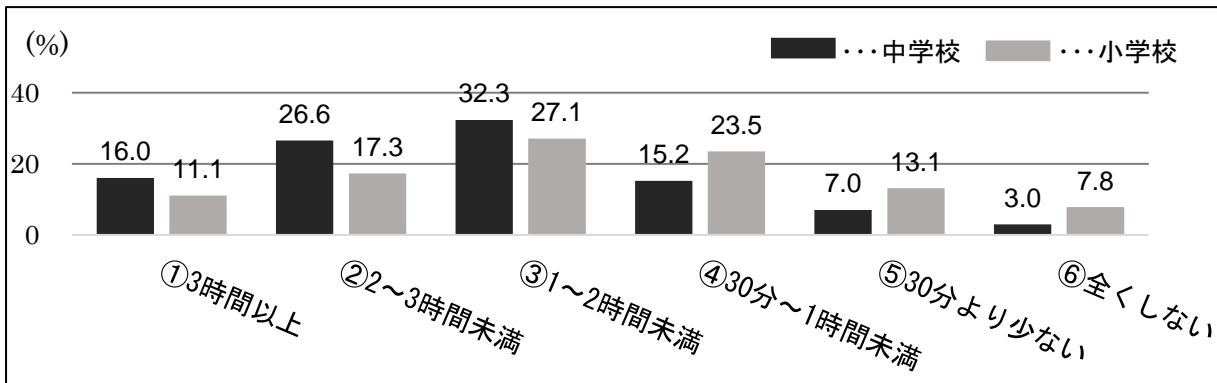
### 3 調査の重点

- ① 過去のSASA・全国学調で課題のある事項、経年比較しておきたい基本的事項、再度確認する必要のある事項
- ② 論理的思考力、論理的説明力を促す出題
- ③ 個別事項の指導改善や新しい授業展開につなげてほしいメッセージ性の高い出題
- ④ 図形・資料を読み取り、活用して表現する活動を促す出題
- ⑤ 生活の中で「生きて働く力」となる生活経験と密着した教科横断的な出題
- ⑥ 郷土知につながる出題
- ⑦ 児童生徒質問紙(児童生徒の生活や学習に関する意識や実態、学級の状態に加え、読書活動や環境に関する事項)

## 質問紙に関する分析

### ○生活に関すること

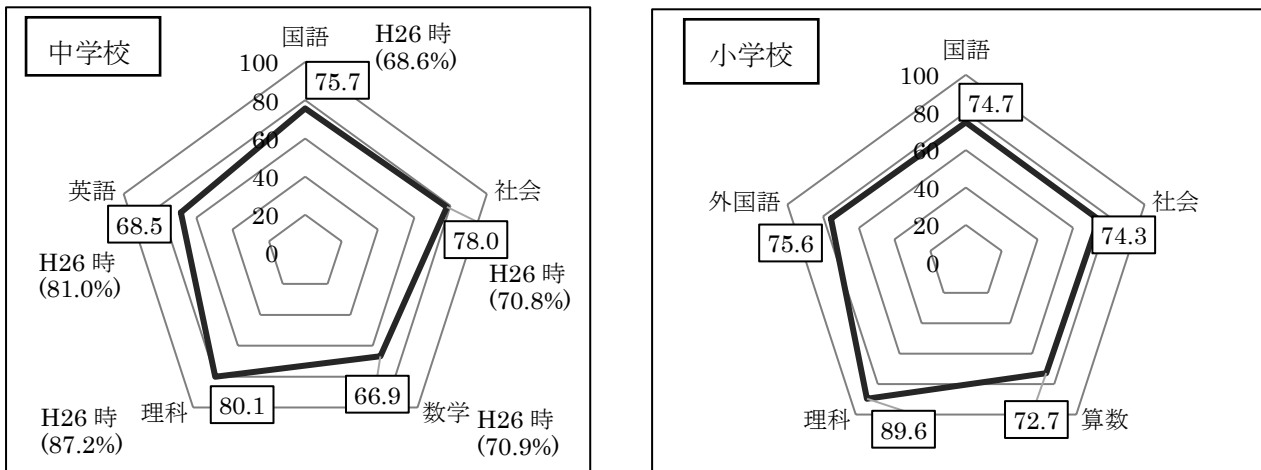
[平日に、一日でインターネットやゲームなどを利用している平均時間の割合の比較]



・小学校よりも、中学校の方が、平日にインターネットやゲームなどを利用している時間が長い。

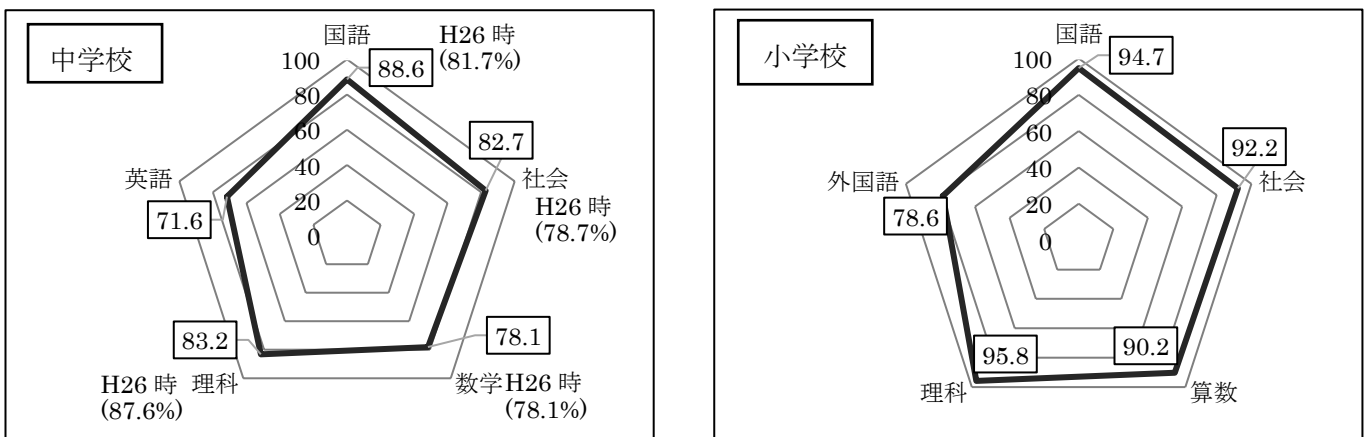
### ○学習に関すること

[各教科において、「授業が好きだと感じている」児童・生徒の割合の比較]



- ・小中ともに、理科の授業を好きだと感じている児童・生徒が多い。
- ・小中ともに、算数（数学）と外国語（英語）の授業を好きだと感じている児童・生徒は、他の教科と比べると少し低い傾向にある。

[各教科の授業における児童・生徒の理解度の比較]



- ・小学校では、各教科において「授業が好きだと感じている」児童の割合の結果と比例して、「理科の授業が分かる」と感じている児童が多い。
- ・中学校では、各教科において「授業が好きだと感じている」生徒の割合の結果では、理科が一番高かったが、「国語の授業が分かると感じている」生徒が多い。
- ・小中ともに、算数（数学）と外国語（英語）の「授業が分かると感じている」児童・生徒が、他の教科と比べて少し低い傾向にある。各教科の正答率を比較すると、算数（数学）・英語は共に低いので、児童・生徒が2教科に対して、難しいと感じている様子が見える。

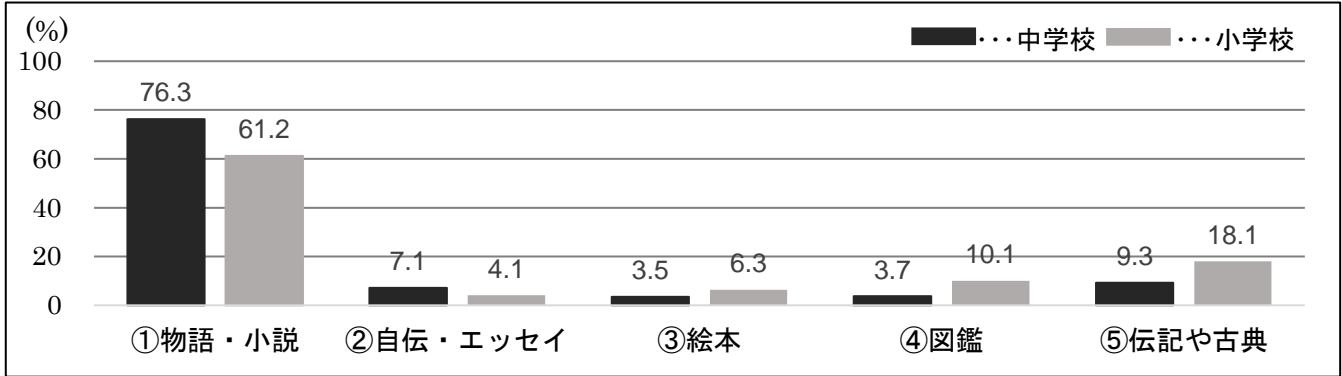
## ○読書環境に関すること

[並行読書（学習している題材や作者に関係のある本を読むこと）の実施状況について]

	並行読書をしたことがある	並行読書をしたことがない
小学校	58.0%	41.2%
中学校	30.7%	68.7%

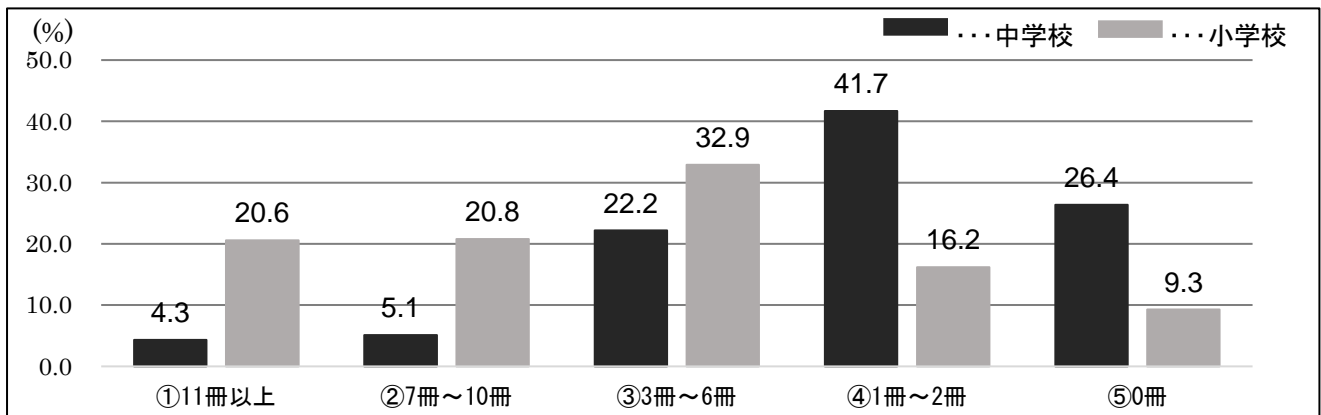
- ・小学校では、並行読書をしている児童が多いが、中学校では並行読書をしている生徒が少ない傾向にある。

[好きな本の種類の割合の比較]



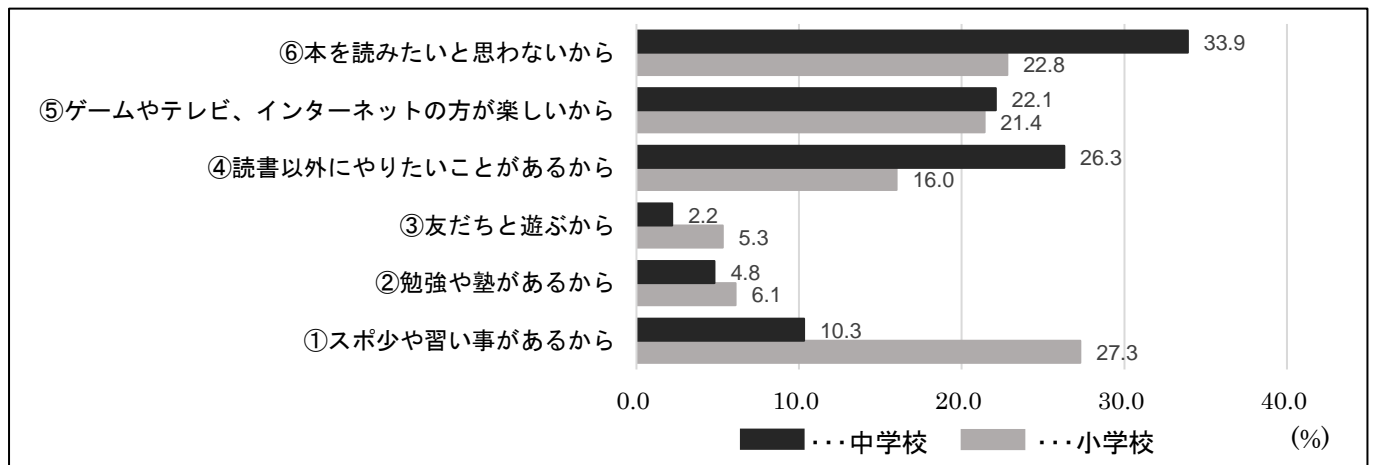
- ・小中共に、物語・小説が好きな児童・生徒が多い。
- ・小学校では、伝記・古典が他の本と比べると好きな児童が少し多い傾向にある。

[最近1か月間で読んだ本の冊数（マンガ、雑誌を除く）の比較]



- ・小学校の方が、中学校よりも1か月間で多く本を読んでいる。

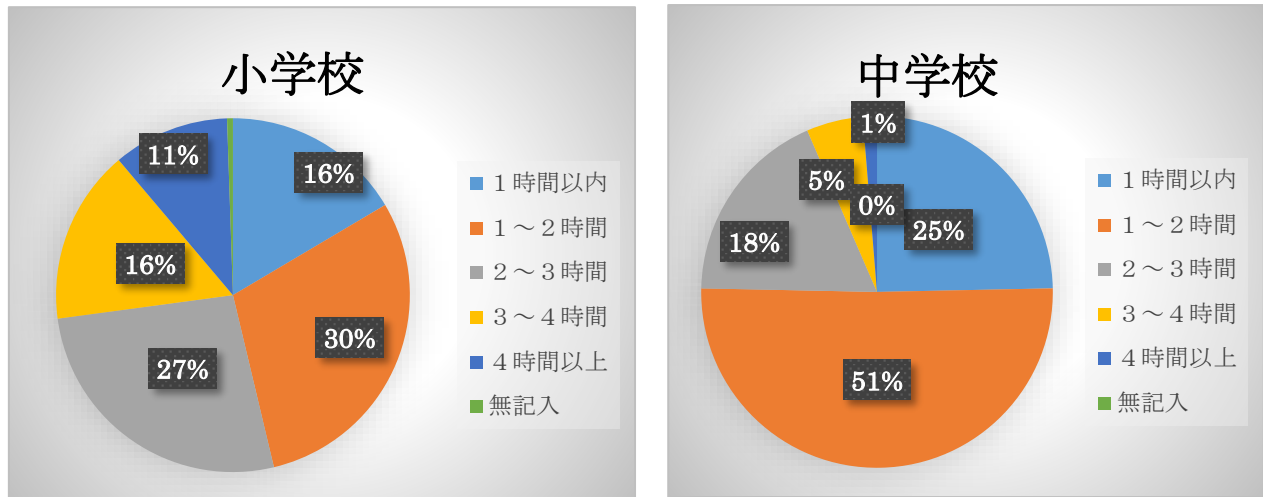
[1か月間本を1冊も読んでいないと答えていた児童・生徒が、本を読まなかった理由の比較]



- ・小学校では、本を読まなかった理由は①スポ少や習い事があるからと答えている児童が多い。
- ・中学校では、本を読まなかった理由として⑥本を読みたいと思わないからと答えている生徒が多い。

## SASA2019調査後のアンケート結果

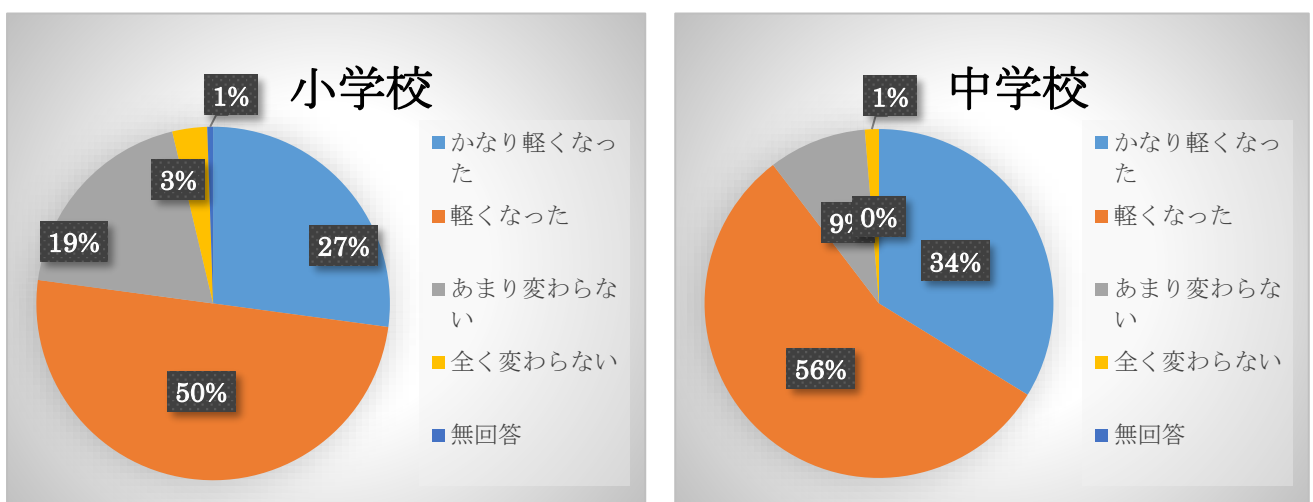
### 1 教師一人あたりの記述採点にかかった時間



記述問題の採点に要する時間については2時間以内で終わるのは小学校では約5割、中学校では約8割となっている。小学校は、担任がすべての教科をみるために採点に時間を要するのではないかとと思われる。

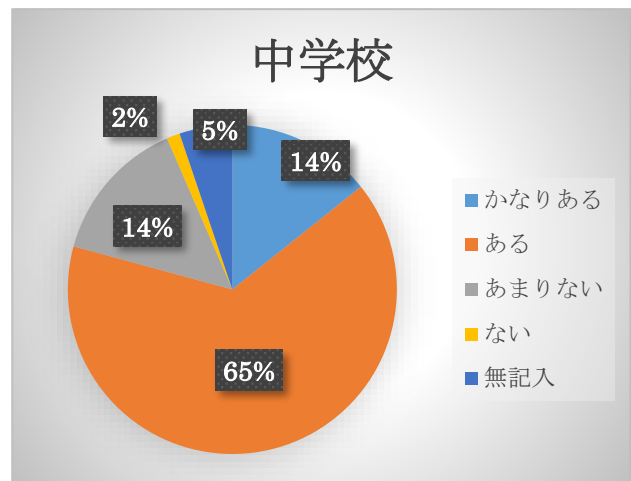
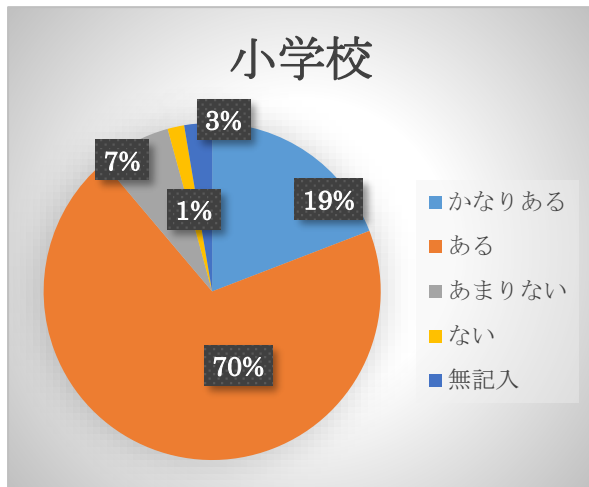
ただし、小学校の大規模校において4時間以上と答えた学校が1割強ある。

### 2 負担感



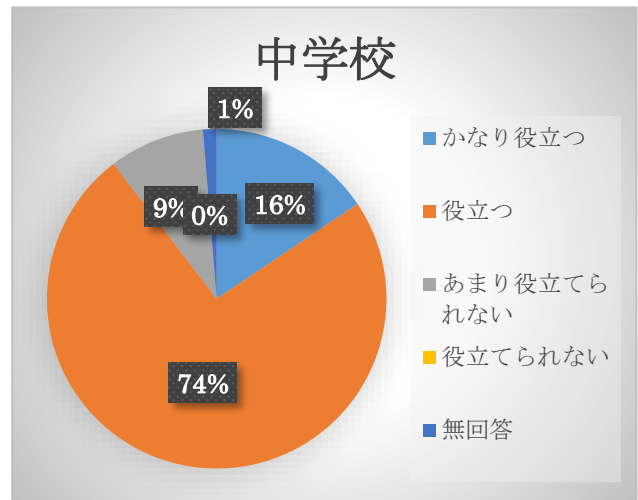
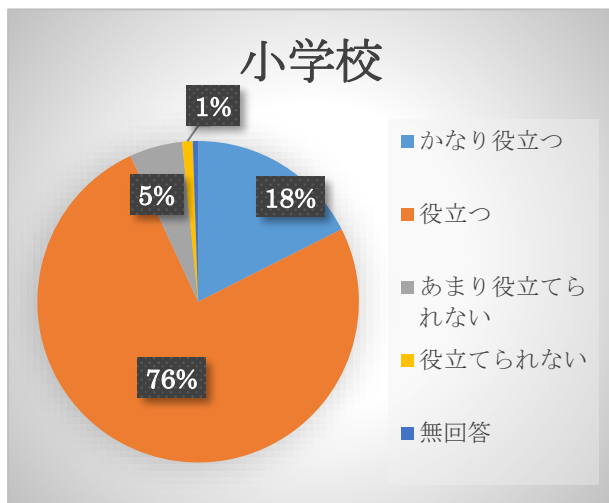
学力調査の実施についての負担感については、今回、採点・入力省力化を図った。小学校で8割、中学校で9割が軽くなったと評価している。

### 3 自己採点の効果



自己採点の効果については、小学校は約9割、中学校では約8割で効果があるとしている。

### 4 「調査のポイント」は役立つと思うか



今回導入した「調査のポイント」は出題の意義などを示したもので、指導に役立つと評価されている。